

楽器の音色を視野に入れた音高構成理論の研究：感 覚的協和理論の音楽への応用

小畑，郁男

<https://doi.org/10.15017/1398258>

出版情報：九州芸術工科大学，2001，博士（芸術工学），課程博士
バージョン：
権利関係：

謝辞

本研究を始めるにあたり御尽力をいただき、研究の全般にわたり御指導いただきました吉川茂九州芸術工科大学教授に深く感謝いたします。専門分野に限らず、尺八奏者としての音楽の理解に裏付けられた、幅広い視野からの御意見、御指導をいただいたことによって、様々なアイデアが喚起され、研究というものの本質に関するよりいっそうの理解と確認を得られたことは貴重な体験となりました。

心理実験に関する方法について御指導いただき、論文に関する具体的な御指摘をいただきました岩宮眞一郎九州芸術工科大学教授、現代音楽ゼミを通して、現代における作曲技法に関する知識の確認をさせていただいた中村滋延九州芸術工科大学教授、参考となる文献をご紹介いただきました中島祥好九州芸術工科大学教授、音楽学の方野において貴重で親身なご指導をいただきました矢向正人九州芸術工科大学助教授、ディスカッションの中でアイデアをいただいた栗原詩子九州芸術工科大学助手に感謝いたします。

亀岡秋男北陸先端技術大学院大学教授には一面識もない私に、貴重な文献をお送りいただきました。お送りいただいた文献によって「亀岡モデル」への理解を深めることができましたこと感謝いたします。

九州芸術工科大学在学中に御指導いただき、本研究に関しましても貴重な御指摘、御示唆をいただきました安藤由典九州芸術工科大学元教授、研究を始めるにあたり御示唆をいただきました津村尚志九州芸術工科大学元教授、九州芸術工科大学在学中の御指導、本研究に関する御指摘、御示唆だけではなく、今回の研究の道を開くことについても御尽力いただきました井上公子九州芸術工科大学元講師に感謝の意を表します。

サクソフォン奏者、荒木浩一氏、作曲家三村恵章氏にはディスカッションを通して、本研究に関する貴重なアイデアをいただいたこと感謝いたします。

有元慶太氏をはじめとする九州芸術工科大学吉川研究室の方々にはゼミにおけるディスカッションを通して様々なアイデアをいただいたこと、コンピューターに関する具体的な知識をいただいたこと等、深く感謝します。

本研究の基礎となる音響学に関する知見は九州芸術工科大学在学中に得たものです。牧田康雄九州芸術工科大学元教授をはじめとする、在学中にお教えいただいた諸先生方に感謝いたします。

また、第1章における音楽学に関する知見は国立音楽大学在学中に得られたものです。高野紀子国立音楽大学教授をはじめとする諸先生方に感謝いたします。特に徳丸吉彦先生の音楽記号学に関する講義、佐野光司先生の現代音楽に関する講義には多くのものを負っています。そして本研究に直接つながっていくことになった論文の御指導をいただいた金子篤夫先生に改めて深い感謝の意を表します。

心理実験に際しては以下の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。

明石千雅子、瀧美京子、荒木浩一、荒木真子、有馬史、有元慶太、イー・ヒョンジョン、岩本尚子、内山憲子、榎田直美、大久保美知子、大田黒由美、大塚顕一、大西章、柿田貴久子、川脇絹代、桐原尚子、草野延代、久米詔子、小出啓一郎、小島信、小畑洋子、後藤美樹、坂本宋温子、志垣美雪、下村和子、城一裕、陣野弘子、瀬野豪志、袖崎玲子、竹原佳名子、田中恵美、田中忍、田上るみ子、辻拓哉、徳永志保、中谷寿人、中村和代、中村慎司、中村奈緒美、野崎美保、橋本美恵、馬場真弓、原田耕太、原田洋子、藤島規博、藤原みか、堀尾寛太、堀川愛子、松本晶子、松本さくら、三ツ口昌吾、三村恵章、武藤葉子、森裕子、山上憲、山本昌平、山本裕子、吉原範子、若林祐子(五十音順、敬称略)。